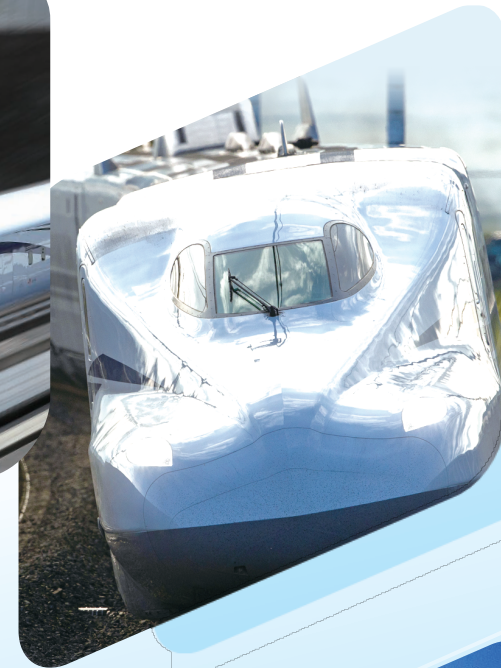




東海旅客鉄道株式会社
統合報告書 2026
2026年3月期



- 2 | 経営理念
- 3 | JR東海の収益構造
- 4 | マーケットエリアの特徴・輸送力
- 5 | JR東海のあゆみ

事業戦略

- 7 | TOP MESSAGE
- 11 | JR東海グループの「ありたい姿」
～30年後の未来に向けて～
- 15 | 最新の技術を活用した経営体力のさらなる強化

価値創造

- 19 | 価値創造プロセス
- 21 | 価値創造ストーリー
- 23 | 当社グループが考える「サステナビリティ経営」
- 25 | 株主還元・キャピタルアロケーション

- 27 | 財務データ

マテリアリティ

- 31 | 安全かつ強靱な社会インフラの維持・発展
- 45 | より便利で、快適で、安心してご利用
いただけるサービスの提供
- 50 | 地域との連携による社会・経済の発展
- 57 | 環境優位性の追求による地球環境の保全
- 67 | 社員一人ひとりが意欲・能力を高められる
企業文化の構築
- 75 | 技術力を基盤としたイノベーションの推進
- 79 | すべてのステークホルダーからの
信頼を高めるガバナンスの徹底

- 86 | 会社概要

編集方針

当社では、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するために、株主・投資家の皆様をはじめ、多くのステークホルダーとの対話の充実に努めています。本レポートは、当社の財務情報に加え、事業戦略やESG情報等の非財務情報について総合的に理解を深めていただくことを目的としています。編集に当たっては、国際統合報告評議会(IIRC)の「国際統合報告フレームワーク」及び経済産業省の「価値共創ガイドランス」を参考にしています。また、ESG情報については、GRI(Global Reporting Initiative)の「GRIスタンダード」を参考にしています。

【見通し等に関する注意事項】

本誌に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社及び子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。なお、本誌は、原則として2026年6月末までの情報に基づき作成されています。

- 金額は単位未満を切り捨て、その他の数値は単位未満を四捨五入して表示しています。
- FY2025は2025年度を示します。

経営理念

日本の大動脈と 社会基盤の 発展に貢献する

「日本の大動脈」とは

当社は、東京～名古屋～大阪の高速大量旅客輸送を担うことを使命としています。「日本の大動脈」とは、この旅客輸送のことを示しています。この地域は、日本の経済や文化の中心として重要な役割を果たしているため、大動脈輸送の停滞は、日本の経済・社会全体の動きの停滞にもつながりかねません。当社は、東海道新幹線と中央新幹線により、現在も、そして将来も日本の大動脈輸送を担うという使命を果たし続けていきます。

「社会基盤」とは

当社は、日本の大動脈と一体的に、名古屋・静岡を中心とした地域に根差した在来線運営とこれらの地域を中心としたグループ事業展開を行い、人々の生活を支える、より広い意味では「社会基盤」としての使命も担っています。今後も変わりなく在来線網の運営、グループ事業の展開にもさらに磨きをかけていきます。

